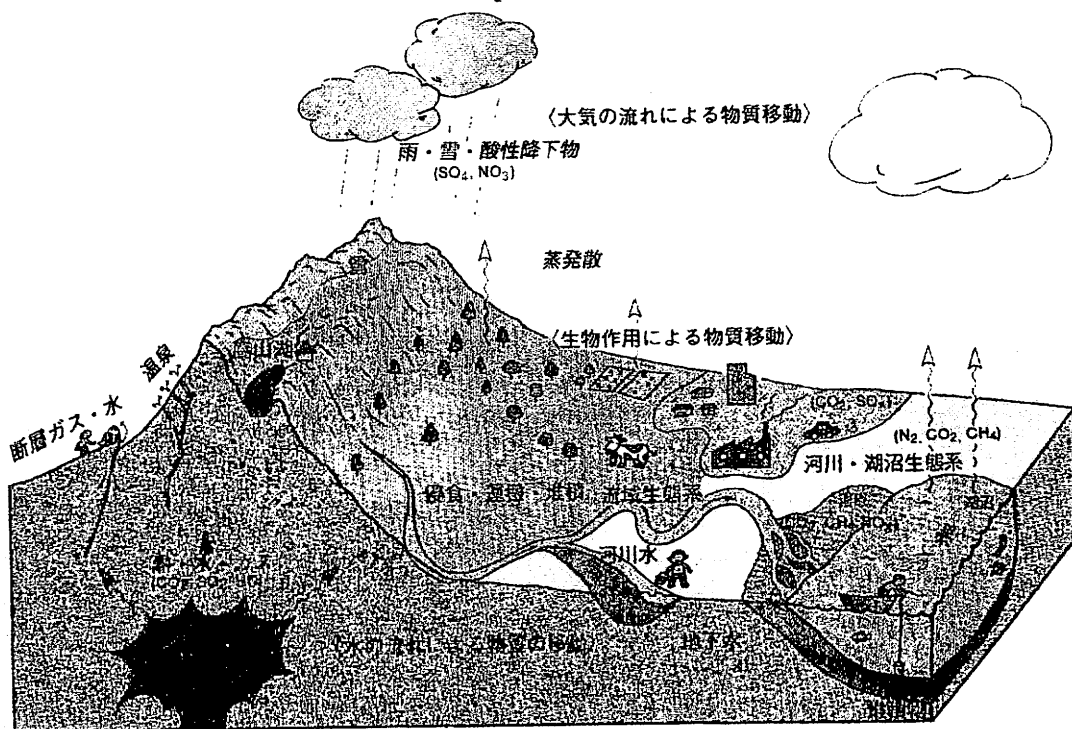


2000年度 積雪期 山行報告書



SAC
信州大学山岳会

目次

2000年度山行一覧	2
冬合宿偵察/神岡～蓮華岳	3
錫杖岳継続	4
南ア深南部	6
女鳥羽川中の沢地獄谷	8
明星山左岩稜	9
中ア木曾駒ヶ岳	10
富士山	11
小同心クラック	13
ハツ西面	14
幕岩大凹角ルート	15
雲取山	16
伊豆クライミングツアー	17
富士山	20
鹿島槍東尾根	21
雪訓合宿	23
北の俣・薬師岳スキーツアー	24
瑞牆山十一面岩	25
戸隠山P1尾根	27
一年間の総括・今年目標	28
編集後記	38

2000年度下半期山行計画一覧							
日時(計画)	(結果)	山域・ルート名	形態	リーダー	メンバー	成否	備考
10/7~10/10(3+1)	10/7~10/9(3+0)	八ヶ岳全山(蓼科~小淵沢)	縦走	宮西(1)	林(1), 矢野(1)	○	
10/7~10/11(3+2)	10/7~10/9(3+0)	北アルプス横断(神岡~蓮華岳)	縦走(偵察)	岸本(4)	日(4), 梶(3), K(3), 松(3)	○	
10/7~10/12(4+2)	10/7~10/9(3+0)	雲ノ平周辺	縦走(撮影)	大木(4)		○	
10/14~10/15(2+0)	左に同じ	錫杖岳前衛フェース(1ルンゼ・3ルンゼ)	岩(定着)	日高(4)	野(2), 宮西(1)	△	1ルンゼのみ
10/14~10/15(2+0)	左に同じ	錫杖岳(ジェードル~烏帽子岩・本峰フェー)	岩(継続)	横山J(3)	岸(4)	△	本峰は行かず
10/14~10/17(2+2)	10/14~10/16(2+0)	南アルプス深南部堀谷川~池口・光岳	沢・藪	松壽(3)	梶(3), K(3), 矢野(1), 林(1)	○	
10/16(1+0)	左に同じ	女島羽川中の沢地獄谷	沢	岸本(4)	日(4)	○	
10/17(1+0)	左に同じ	雨飾山	縦走(撮影)	大木(4)	日(4), 妻谷(5)	○	
10/21(1+0)	左に同じ	明星山P6南壁左岩稜	岩	松壽(3)	K(3), 野(2)	○	
10/21~10/22(2+0)	左に同じ	南アルプス仙丈岳	縦走(撮影)	大木(4)		○	
10/28~10/29(2+0)	左に同じ	南アルプス仙丈岳	縦走	野川(2)	K(3), 佐(1), 矢野(1), 林(1), 宮西(1)	○	
10/28~10/29(2+0)	なし	唐沢岳幕岩島山ルート	岩	大木(4)	花(6)	×	悪天のため
11/11~11/13(2+1)	11/11(1+0)	中央アルプス木曾駒ヶ岳	縦走	梶原(3)	岸(4), 宮西(1), 林(1), 佐(1)	○	
11/18~11/20(2+1)	11/18~11/19(2+0)	富士山	縦走	松壽(3)	岸(4), 大木(4), 梶(3), 野(2)	△	吉田口山頂まで
11/23~11/27(3+2)	11/23~11/25(3+0)	ブレ冬合宿/双子尾根~白馬岳~柵池	縦走	岸本(4)	全メンバー(1~4年)	△	双子尾根のみ
12/3(1+0)	左に同じ	八ヶ岳西面小同心クラック	岩	横山J(3)	野(2)	○	
12/9~12/10(2+0)	左に同じ	八ヶ岳西面各ルート	氷	松壽(3)	日(4), 梶(3), K(3), 佐(1)	○	
12/9~12/11(2+1)	12/9~12/10(2+0)	唐沢岳幕岩大凹角ルート	岩	岸本(4)	花(6), J(3)	○	
12/23~1/8(11+6)	12/23~1/7(7+9)	冬合宿/神岡~蓮華岳	縦走	岸本(4)	全メンバー(1~4年), 花谷	△	ブナ立尾根下山
1/26~1/28(3+0)	1/26(1+0)	八ヶ岳西面アイス	氷	岸本(4)	日(4)	△	大雪のため
1/27~1/29(2+1)	1/27(1+0)	三伏峠デポ上げ	縦走	野川(2)	梶(3), K(3), 松(3), J(3), 佐(1)	△	大雪のため
2/5~2/8(3+1)	なし	錫杖岳前衛フェース左方カンテ	岩	横山J(3)	岸(4), 松(3)	×	デポ上げと重なったため
2/6~2/8(2+1)	2/6~2/7(2+0)	三伏峠デポ上げ	縦走	野川(2)	梶(3), K(3), 松(3), J(3), 佐(1)	○	
2/10~3/18(25+12)	2/10~3/9(18+10)	南アルプス全山(風凰~大無間・小無間)	縦走	野川(2)	梶(3), K(3), 松(3), J(3), 佐(1)	△	大沢岳より下山
2/26~2/28(3+0)	なし	大谷不動	氷	岸本(4)	妻谷(5)	×	メンバーの都合つかず
3/26~3/27(2+0)	左に同じ	雲取山	縦走	横山J(4)	佐(2)	○	
4/2~4/4(3+0)	左に同じ	波崎崎海金剛各ルート	岩	横山J(4)	岸(5)	△	2・3日目は城が崎へ
4/7~4/9(2+1)	4/7~4/8(2+0)	富士山	縦走	横山J(4)	梶(4), K(4), 松(4), 野(3)	○	
4/14(1+0)	なし	北アルプス針ノ木岳	スキー	野川(3)	川井(6), 岸(5)	×	メンバーの都合つかず
4/14~4/16(2+1)	4/14~4/15(2+0)	鹿島槍ヶ岳東尾根	雪稜	松壽(4)	大木(5), 梶(4), J(4)	○	
4/18~4/19(2+0)	4/18(1+0)	三伏峠デポ回収	縦走	野川(3)	松(4)	○	
4/21~4/22(2+0)	4/22(1+0)	雲駒合宿/柵池周辺	雪割	横山J(4)	野(3), 佐(2)	○	
4/21~4/22(2+0)	4/22(1+0)	北アルプス蝶ヶ岳	縦走	大木(5)		○	
4/28~4/30(3+0)	4/28~4/29(2+0)	瑞牆山十一面岩各ルート	岩	横山J(4)	花(0B), 岸(5), 大(5), 佐(2)	○	
4/28~5/2(3+2)	4/28~4/29(2+0)	北アルプス北ノ俣岳・薬師岳	スキー	野川(3)	松(4), 川井(6)	△	
5/3~5/5(2+1)	5/3~5/4(2+0)	戸隠山P1尾根	雪稜	梶原(4)	日(5), 松(4), K(4)	△	
5/3~5/5(2+1)	なし	西農島岳中央稜	雪稜	横山J(4)	野(3), 佐(2)	×	悪天のため

※メンバーについて

花=花谷、岸=岸本、大=大木、日=日高、梶=梶原、松=松壽、J=横山勝丘、K=横山輝生、野=野川、佐=佐藤

※成否について

○=成功、△=計画全消化ならず、×=中止

冬合宿偵察山行（北アルプス南部横断）

期間：10月7日～9日

メンバー：岸本、日高（4）松崎、梶原、横山輝（3）

10月7日（晴れ）5：00起床～12：40北ノ俣岳～16：30黒部五郎小屋

前日の夜神岡新道の登山口である打保まで入る。神岡新道は岐阜側ということもあり、我々には馴染みの薄いところであったが、北アには珍しいのんびりとした山のたぐずまいが新鮮で、秋晴れの空の下、一面の紅葉もあいまって心に残る一日であった。冬を考えると剣・立山が思いのほか近くに見え、身が引き締まった。

10月8日（曇り）4：00起床～6：45三俣蓮華岳～9：50水晶小屋～

14：45烏帽子小屋

ひたすら稜線歩きの一日。冬もおそらくアイゼン主体のこの区間は快適に進めるだろう。水晶小屋から野口五郎に向かうはじめのところが冬はザイルが必要かとおもわれた。野口五郎小屋は早くも閉鎖していたが快適な冬季小屋があり心強い。連休だというのに烏帽子のテシ場には我々のほかに中高年の1パーティーのみ。この辺はひとけが少ない。冬は何人ここを通る人がいるのだろうか？

10月9日（雨／曇り）4：00起床～10：00船窪岳～15：15蓮華岳

～18：40大沢小屋～20：00扇沢

この区間はアップダウンが激しく、また信州側は崩壊して絶壁になっているため冬場を考えると憂鬱になることしばしばであった。雪のつき方は予測できないがいずれにせよ合宿の核心となる部分であるとの感想をもった。針ノ木峠から扇沢までは中間部に雪渓が残っていて複雑な高巻きを強いられ、口惜しくも最終バスを逃がした。

（偵察後の結論）

「1に体力、2も体力、3、4も体力、5に根性！！要トレーニング！！」

10/14・15 錫杖岳

前衛フェースジェードルルート～烏帽子岩南壁右ルート～本峰正面壁ルート
横山勝丘(3) 岸本俊朗(4)

10/13 夜、松本を発つ。前衛フェースを登る日高パーティと一緒だ。1時間半かけて槍見温泉に着く。駐車場にテントを張り寝ていると、夜中に続々クライマーがやってきた。

10/14 駐車場500～630左方カンテ取付700～830ジェードルルート～1200終了点～1300烏帽子岩基部1400～1530終了点1600～1630烏帽子岩基部T、S

駐車場からクリヤ谷をつめる。何度も歩き慣れた道だ。うっすらガスがかかっている。左方カンテから始める。

1P目(Ⅲ+,50m,岸本)簡単なルンゼ。50mいっぱいばいに伸ばす。それでも足りずに53mくらいになる。

2P目(V+,30m,横山)下部核心の真下から始める。快適なフリーで越し、バンドを右トラバース。チムニーの真下でピッチを切る。

3P目(V,40m,岸本)チムニーを越え、フェースを越え、ジェードルルート取付横でビレー。今回、左方カンテは5Pで終わらせることが出来るとわかった(最後のしょぼいピッチを割愛すれば4P)。

4P目(A1/IV+,40m,横山)いよいよジェードルルートに入る。右にトラバースし、コーナーを登る。最初フリーで登っていたが、すぐ諦める。所々に木のくさびがある。昔の人は凄い!小さなハンクを越す辺りから傾斜が立ってきて、キャメロットやナッツでのエイドになる。残置ピンは全く効いていない。最後草付を登ってハンク下のビレー点へ。ビレー点のボルトは抜けているので自分で支点をセットする。

5P目(A1/IV+,35m,岸本)凹角を登るとハンクに突き当たる。ハンク下を左上するが、新しいリングボルトが打たれている。間隔が異常に近いので、簡単なあぶみ動作である。ここを抜けると、きれいなジェードルがある。岩が硬く高度感もあり、フリーで登ればよいピッチだろう(5.10)。上部で右にトラバースするが、高度感があって楽しい。ブッシュを15mほど登って終了。

ここから更にブッシュを行くと、踏み跡に出る。ルーファイに気をつけ、尾根上にあがると、眼前に烏帽子岩がある。烏帽子岩の南側をトラバースし、とりあえず洞穴下のテン場に荷物を置く。南壁右ルートは、2つあるジェードルのうち、右の方である。

1P目(V,50m,横山)出だしはジェードルの右壁のフェースを登る。最初から傾斜がきつい、ガバが多い。ただし、ほとんど浮いている。途中から凹角内に入り、順調に高度を稼ぐ。

30mほどでテラスに出る。ここは終了点もあるが、無視して進むことにする。終了点の右にピトランダがあるののでそこに取付いてみるが、どう考えても5.10以上あり、しょぼいプロテクションでフリーをする根性はなかったのでそこは諦める。一旦テラスまで戻り、左側のかぶった壁を登ることにした。かぶってはいるが、岩は硬くガバもあり、また、し

っかりしたクラックにキャメロットが決まるので安心である。そこを越えるとブッシュと岩が交互に現れ、50mぎりぎりではなかなか良いテラスに着いた。ルートは外れているが、どこを登っても大差はないだろう。カムでピレ一点を作る。

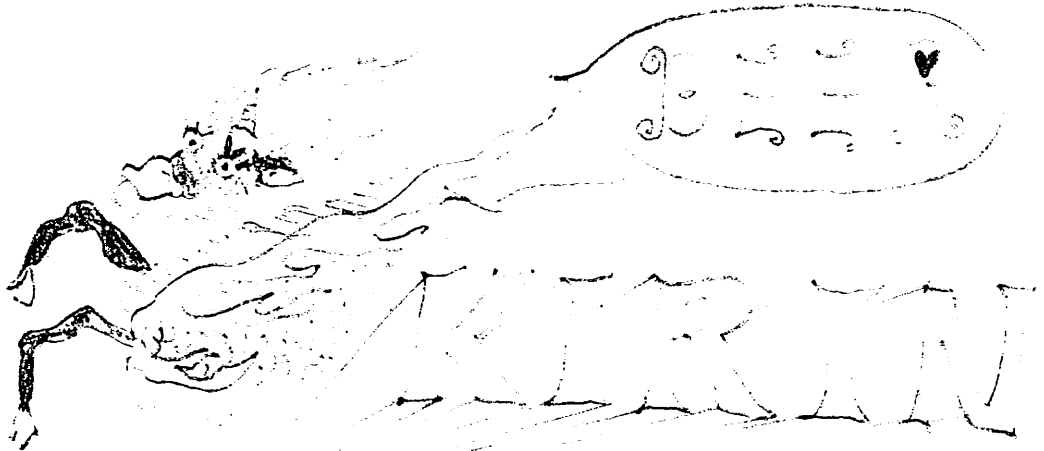
2P目(N+,15m,岸本)岸本さんは、大系にあるかぶったフェースを楽しみにしていたのだが、そんなものどこにあるのか知らない。仕方なく目の前のフェースを登ってゆく。しかしなかなか楽しいマントリングがあったりして少しは満足したようだ。終了点は、東肩ルートすぐそば。ルートの的にはほとんど間違いなかったようだ。 下降は東肩ルート。

洞穴内にツェルトを張り、傍で盛大な焚火をする。夜は少し寒かったが、快適だった。

10/15 T.S 600~640 本峰正面壁ルート 取付 730~800 東尾根~900 錫杖岳 930~牧南沢 下降~1130 錫杖岩小屋 1500~1630 駐車場

朝から盛大な焚火。簡単に朝食を摂り、本峰フェースへと向かう。少し藪を漕いだけですぐ壁の基部に出る。所々に残置が見える。傾斜はきつい。また、ハンクもあり、なかなか威圧的だ。正面壁ルートを探すが、あまり良くわからない。何とかそれとおぼしき所を探し当てるがまいち自信が持てない。そうこうしているうちにぱらっと雨が降り始めた。残念だが今回は諦めることにする。それにしてもなかなか良い壁だ。また今度絶対来よう。そのまま帰るのも勿体無かったので、東尾根経由で錫杖岳に登ることにした。東尾根は所々細い岩稜となり、冬、前衛フェースを登った後につなげれば充実する事間違い無しである。今まで何度も錫杖には来たが、山頂に立つのは初めてである。展望も良く、なかなか快適な山頂だった。南尾根は踏み跡もあり、難しくはない。途中、山頂に向かう2パーティとすれ違った。こんな所で人に会うなんて思わなかったので驚いた。沢を降りる途中、本峰フェースが見えた。壁は非常にすっきりしており、なぜ人気がないのか不思議なくらいだ。錫杖沢に出て1ルンゼの方を見ると、まだ日高さん達が登っている。岩小屋前でボルダリングをしたり、またまた焚火をしたりして過ごす。日高さん達が戻ってくるのを待って、一緒に下山する。例の如く、温泉につかり、ゴリラでアイスを買って帰松。

錫杖の継続はお手軽でなかなか良い。継続しなくても前衛フェース上の仙人が出てきそうな景色を見るだけでも行く価値あり。錫杖大好き、錫杖万歳! (文責 横山)

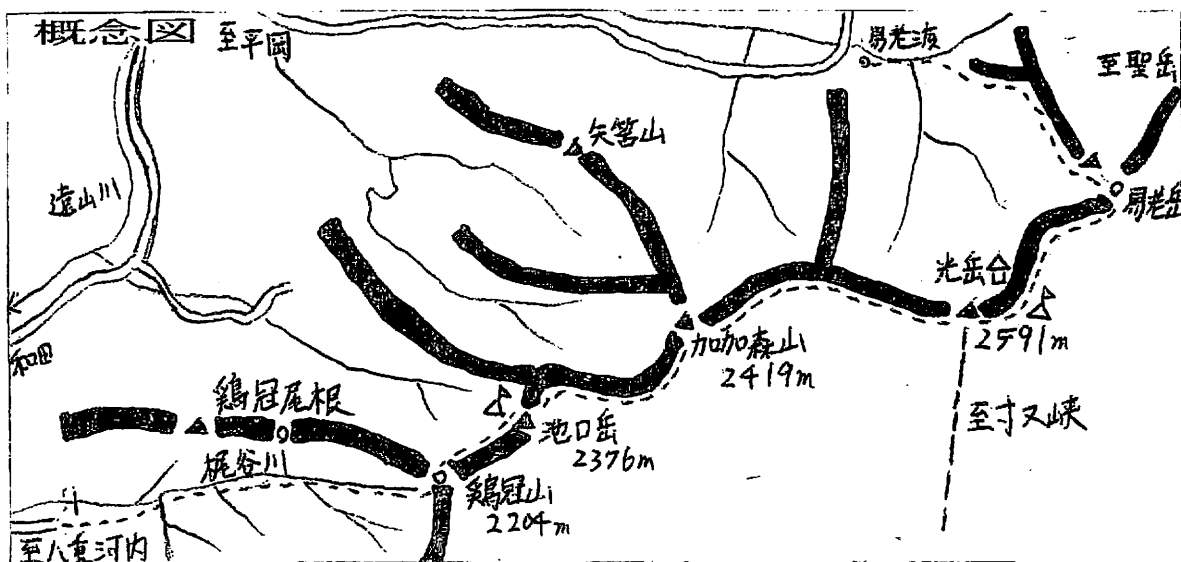


南アルプス深南部 梶谷川～池口・光

岳

10月14日～17日（実動2日・予備2日）

メンバー：L松寄林太郎（3）、梶原恵（3）、横山輝生（3）、矢野航



行程、10月14日 4:30起床～5:30出発～11:30鶏冠沢出合い～15:00鶏冠山山頂～16:20、2106mT、S/10月15日 4:30起床～5:30出発～7:00池口岳～10:30光岳～13:30易老渡

南アルプスの夏季全山縦走をしてからと言うもの、南アルプスの深南部に憧れていた。南アルプス特有のどっしりとした山容。そして、奥深い森林。野生動物の匂いがぶんぶんしてきそうだ。

今回の梶谷川はたいした沢ではなく、藪もたいしたことはなかったが、深南部の魅力を十分に満喫できたと思う。10月13日にボンドさんにも車を出していただき、悪路を易老渡、梶谷集落まで送っていただいた。翌朝、明るくなり始めてから出る。最初は林道沿いに行く。しばらく行くと滝が出て来た。とても直登できない。滝の左側が登れそうなので進む。少し恐

いところがあり、矢野のために御助けザイルをだす。その滝を越えてからは、沢を高巻いていく。少々足場が悪くて先が思いやられる。しかし、少し進むと、再び沢に下りることができた。先を見渡せばたいして時間もかかりそうでなかったので一安心。沢シューズに履き替えて先へと進む。矢野のスタイルには一同爆笑。土方のおっちゃんだった。先へと進むと周りに猿が現われはじめた。川には魚影があり、つりに無知な自分は悔しかった。また、狩猟の後らしき獣の死骸が紐でつるされていた。標高を上げるとともに周りの木々は色づいている。更に標高を上げると川は涸れ沢となる。地図さへしっかりとみていけば、支沢に迷うことなく稜線に出るだろう。シカの糞を踏みつけながら鶏冠山に着く。そこからは、笹原となり、天気が悪かったら迷うかもしれない。地図を見ながら慎重に下る。20分ほど下ると樹林帯を抜ける。池口岳、光岳も見える。笹原をベッドに良いテンバを見つける。水は、静岡側の沢で補給することができた。鹿の鳴き声を聞きながら、眠りに就く。それにしてもここらへんは鹿の多いところだ。鹿のヌタ場を幾度もみることもできた。翌朝はガスが出ていた。ここら辺は、赤テープもあり池口岳南峰には1ピッチでつく。そこから、北峰までは距離感がなく少し迷った。池口岳北峰はだいぶ人が入っているようだ。その先の加加森山までもガスも晴れ順調に進む。加加森山は地面が一面苔に覆われており自分好みだった。光岳を越え易老渡へとついたのは崖過ぎだった。このころには雨となっていた。



YEBISU さん

ルート：女鳥羽川・中ノ沢地獄谷

日時：10月16日、日帰り

メンバー：岸本、日高

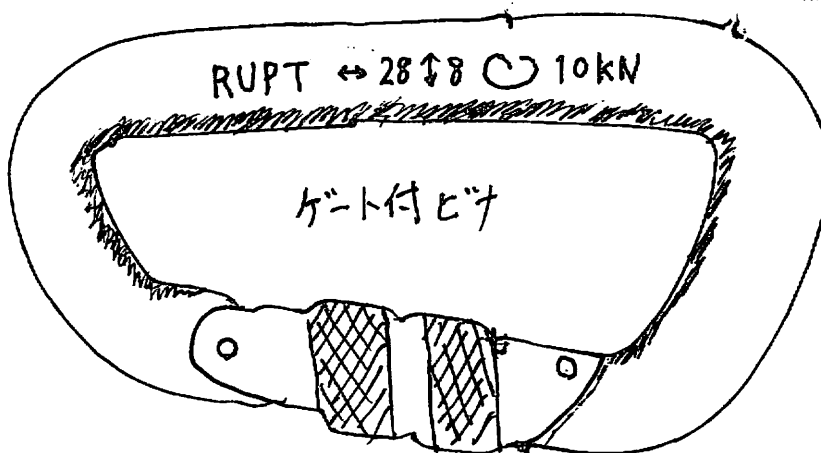
この計画は、我々がお世話になっている行きつけの飲み屋「チベット」のマスター、荒木氏(マスターは一見普通の親父さんだがこの人の登攀歴はすさまじい。)から大学の横に流れている女鳥羽川は源流まで遡行するとなかなか楽しめる。と言う情報を頂き「それならば」と計画した物であった。

前夜から二人あわせて手持ちの現金が300円ほどしかなく朝飯も買えない行動食も買えない状態だったので9時まで郵便局が空くのを待ってから出発した。大学から15分ほど車を飛ばして三才山の集落へいき10:00入渓。とにかく近い。はじめのうちは砂防ダムがあり日高はえらくその存在に憤慨していた。確かにあれはかなり興ざめする。しばらくするときれいな滑床があらわれ沢らしくなった。二人してこんな近くにと驚いた。小さいが腹まで浸かれるゴルジュもある。そこは今回は寒くて高巻いたが夏なら楽しめるだろうと二人で話をした。事前の遡行図はなく、遡行中も遡行図は取らなかった。規模が小さいためその必要もない。2万5千円とにらめっこしながらの遡行は先に何が出てくるかわからないのだがそのわくわく感が楽しかった。水流が少なくなってから尾根に移ったのだがこの尾根歩きが予想外に長く面倒くさかった。14:00 林道着。朝のんびりしすぎたため時間に余裕がなく急いで下山にうつる。烏帽子岩を目指して林道を歩き、そこから藪尾根に突入。地図上には登山道の点線があるのだが実際は廃道となっていて途中から藪の中を勘を頼りに進んだ。取り付きに戻ると日が暮れ始めていた。

山行後の感想としては沢自体は短いが、こんな身近にばかり遊べる沢があることに驚き、感動した。新人を連れて行くにもちょうどよい。少ないが魚もいる。今回は採る余裕がなかったが山菜、きのこもたくさんあると荒木氏は言っていた。冬は支流の滝が凍ったら…。

山の楽しみは尽きないなと思った。

(記:岸本)



明星山 P6 南壁左岩稜

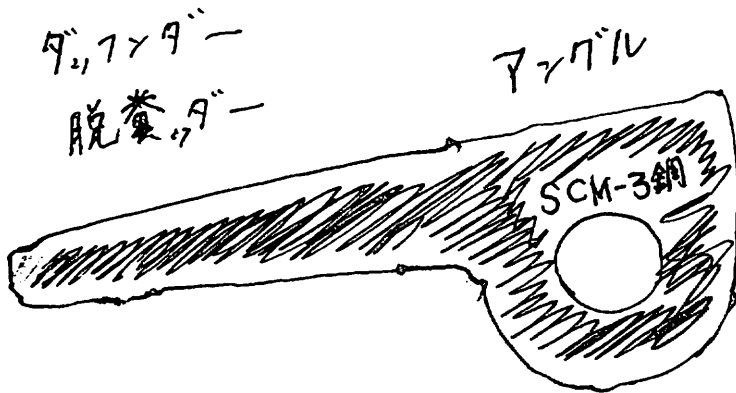
期間：10月21日

メンバー：松崎 林太郎（3年）横山 輝生（3年）野川 謙介（2年）

行程： 4：00松本発～7：10取付き～14：20登攀終了～16：30駐車場着

明星山は何とアプローチが近いところなのだろうか…10月21日は、天気にも恵まれ、気持ちの良いクライミング日和だった。人も多くて先行パーティーを待ったり、後ろのパーティーに追い上げられたりと左岩稜は大人気だった。一ピッチ目は5級となっていたが本当か？3ピッチめは迷わずA0しました。それにしても、明星山はカメムシの宝庫だ。臭くてたまらん。以後難しい所もなく登攀終了。今回の核心は、登攀中の糞であった。後ろから登ってくるパーティーがありながら、我慢できず脱糞。本当にごめんなさい。ノックと野川にもご迷惑かけました。これからは、登攀前にしっかり出しておきます。

10月の終わりでも本チャンができるので、一年生の本チャン不足対策としていいルートなのではないでしょうか。



中央アルプス (木曾駒・宝剣)

○ 日程 11月11日(土)～11月13日(月) |2+1|

○ メンバー

L 梶原 恵(会3)、岸本 俊朗(会4)、砂糖 祐樹(会1)、林 勝也(会1)、
宮西 堅司(会1)

○ 行動概要

11月11日(土)

5:10	桂木場	11:45	宝剣ピストン
7:15	望岳台	12:45	ヤキソバを食す
9:26	将棋頭山	16:00	駒ヶ根橋
10:30	木曾駒が岳		

この週は伊那で落葉松祭が開かれていますので、伊那から行くことが出来る、中央アルプスにした。また、佐藤にとって、夏合宿の事故からの復帰第一回の山という事でのんびりと歩けるリハビリ山行であった。そのため日程なども積雪の状態などで変化するため緩めに計画した。

その実際は…という、心配されていた佐藤の足の調子もよく、雪もなく、予想以上に進めたので、下界では落葉松祭が開かれていますこともあり、1日で切り上げることにした。

前日は落葉松祭の前夜祭に出て、程よく酔った所で就寝。翌日眠たい目を擦りながら、桂小場へ。成人式山行などで歩き慣れた道を行きながら、いつの間にやら将棋頭へ。西駒から木曾駒への稜線は快適そのものだった。心配されていた宝剣岳の積雪もなく、無事にピストンを終える。そして「いざ落葉松祭へ」と下山開始。途中、ヤキソバを食す。黒沢の林道まで降り、カモシカと遭遇し記念写真を撮る。そして下山した後にトラブル発生。この山行のサポート隊ともいべき、大木ポンドさんに迎えに来てもらうはずだったが、そこまでの道路が工事中で通行止め。受け入れがたい事実を目の前にして、啞然。。。そこに工事関係者の車が「ブーン!!」と。ここぞとばかりに岸本さんがヒッチハイク。見事に乗せて頂き、駒ヶ根橋まで。そこでポンドさんと合流。

そして落葉松祭で大フィーバー!!

落葉松祭、皆で坊頭にたれば恐くない?



富士山

期間：11月18日～11月20日（実動2日、予備1日）

メンバー：松壽（3年）岸本（4年）大木（4年）梶原（3年）野川（2年）

行程：11月18日 9：50吉田5合目出発～14：40お鉢着～15：25お鉢発～18：00 八合目T、S

松本を早起きして出発したものの、スバルラインの開通が9：00ということで1時間以上待たされた。冬型だったので天気は良かったが風が強かった。八合目までは雪もなく快適に進む。八合目以降は、雪が出てきて、風も強まってくる。お鉢に着くころには薄いガスと猛風となる。あまりにも強い風だったのでお鉢巡りはやめた。頂上に宿泊予定だったので風のないところを見つけて、テント設営を試みるが人が中に入っても飛ばされそうになる始末。自分のスコップも飛んで行ってしまった。今思うと、テント設営など試みず即下山するべきだった。そして、頂上でのテントをあきらめ八合目で泊まるということになり下山を開始する。風は更に強まりなにか飛ばされそうになる。上級生だけだったので、少し離れて行動した。これも後になっては反省すべき点である。そして事故は起こった。9合目の小屋を過ぎる時に、狭いところを通るところがある。そこは、風の通り道でもありへたをすれば下に落ちてしまう。皆でいっしょに行動していれば、注意しあって降りていたことだろう。一番最後を歩いていたボンドさん（大木さん）がそこで落ちてしまった。幸運にも、小屋の資材にしがみつき下に落ちることは防げた。しかし、足をかなり痛めているらしく、一人であるくことはできないようだ。ひとまず、この場にいることは危険であったので両脇を抱えながら下山する。風は強いが天気は良かったのが幸いしていたと思う。この後、何回かテント設営を試みるが風のため失敗。結局、雪がなくなる八合目までヘッドラ行動で何とか下山する。小屋の間に風が防げる空間がありそこにテントを張る。今思えば、よくボンドさんは、痛みをこらえてここまで下って来た。テントの中で足を見るとだいぶ腫れているようだった。明日の下山のために、岸本さんはストックを使って松葉杖を作った。天気予報では明日も天気は良いらしい。

11月19日 5:20起床~6:30出発~7:25七合目~10:30吉田五合目

昨日に比べてだいぶ風の弱まった中、下山にかかる。最初は松葉杖を利用して下山していたが、それでも、だいぶ苦しそうだった。そこで最後には、ザックと雨具を使ってボンドさんを背負っておろした。これは、秋の搬出の講習会で習ったものだ。改めて、もしもの場合に使える救急法や搬出法の重要性を感じた。ボンドさんの怪我はメーリングリストでもお知らせの通り骨折であった。

今回の事故の反省点

- ・11月の富士山を甘く見ていた。富士山は冬型になると猛烈な風が吹く。12月には同じルートから死亡事故が起こった。冬の富士を甘く考えてはいけない。天気が良くても風には注意しなくてはならない。
- ・富士山の風を知っていたなら、お鉢から即下山するべきだった。
- ・下山中皆はなれて行動していた。ちからのある上級生が多かったので、油断していた。上級生の中に自分は絶対に大丈夫だという変な自信があったのではないか。また、上級生に対しても危険だと思う時にはしっかり物を言う。これは、自分の反省である。
- ・今回の事故は、起こるべくして起きたものだと思う。運が悪かったとかそういったものではない。メンバーの中には、富士山の通常ルートからということで登山前からほとんど緊張感がなかった。実力があるからと言って簡単なルートだからといって、「大丈夫、楽勝だよ、」とか言って気を抜くのは間違っている。どんな山でも危険はある。それを肝に銘じて、これからも山に対して謙虚に取り組んでいきたい。今回は事故報告書と言う形を取らなかった。この場を使って事故報告をしました。この事故で、一番いろいろ感じたのはボンドさんだと思うのでコメントをいただけないのは残念です。しかし、メンバー全員がそれぞれ事故を通して感じたことを、これからの山に生かしていきたいです。反省だけなら猿にもできる。

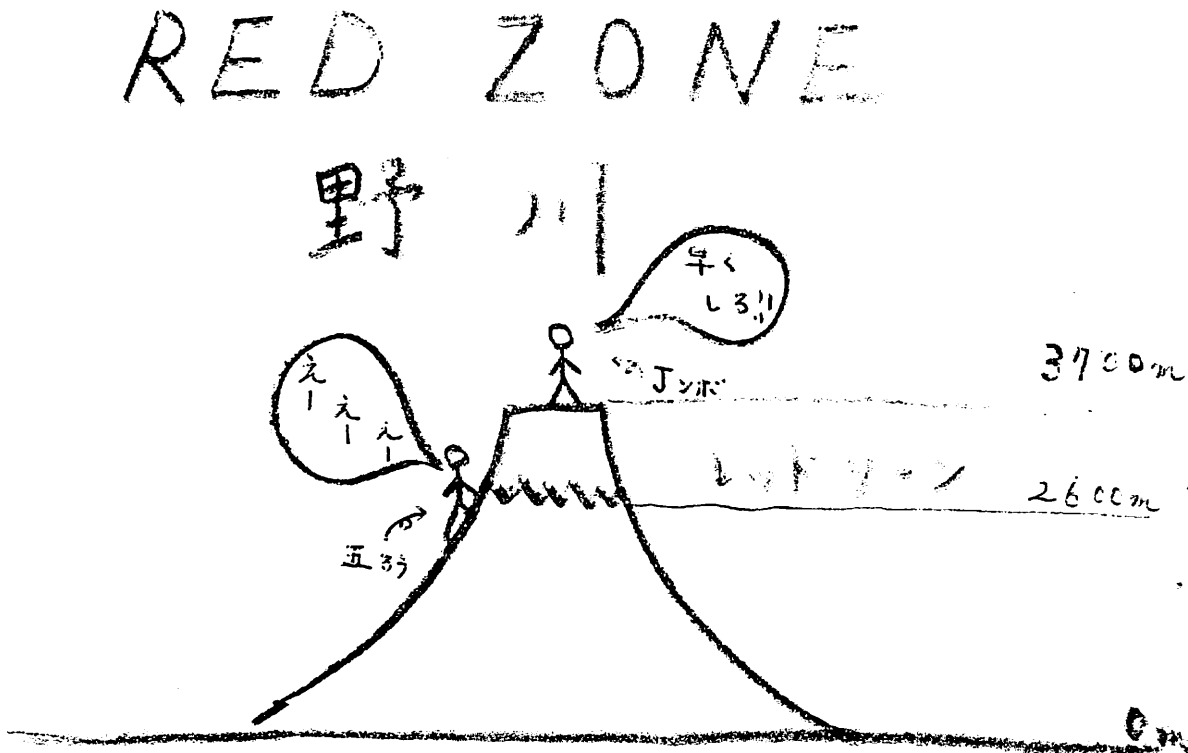
12/3 八ヶ岳小同心クラック

横山勝丘(3) 野川謙介(2)

12/2 総会后、松本を出る。八ヶ岳は近くてよい。美濃戸川から先へとTODAYを走らせる。ガソリンやばい！底すりそう！途中の広場でテントを張る。

12/3 駐車場 600~730 赤岳鉱泉 750~920 小同心クラック取付 945~1115 横岳山頂 1130~1245 赤岳鉱泉 1300~1430 駐車場

朝、てくてく歩いて北沢をつめる。大同心稜で野川レッドゾーンに突入。早すぎ。肝心のルートは瞬殺。雪は少なすぎ。風はちょっと冷たかったが、快適な登攀だった。後続パーティは残置シュリングにヌンチャクでセルフをとるだけで、見ていて恐かった。下山は硫黄岳から。二人で野球の世界選手権があったら誰をピッチャーにするかで盛り上がった。候補者、黒木・松坂・星野・川尻など…。結論、星野！天気はあまり良くなかったが、良い一日でした。



八ヶ岳西面

期間: 2000年12月9日 ~ 10日 (実働2日)

メンバー: 松寿, 梶原, 横山, 佐藤, 日高

12月9日

松寿, 梶原, 佐藤の三人で入山。
赤岳鉱泉をベースにジョウゴ沢での
アイスクライミング。ジョウゴ沢本谷の
大滝にてトッパロープを張って楽しむ。
あまり混んでいなくて良かった。

ジョウゴ沢は、気軽に楽しめるアイスクライミング
のゲレンデではないでしょうか。

12月10日

10日, 日高さんが前日の復入山。

日高さん, 梶原がジョウゴ沢にてアイスクライミング,
松寿, 10日, 佐藤は石尊後にて……

ジョウゴ沢は、右俣の方へ行った。

石尊隊は、昼前には、登攀を終え
1:30には赤岳鉱泉に着。二隊そろって
美濃戸へと下った。

ルート：唐沢岳幕岩・大凹角ルート

日時：12月9日、10日

メンバー：岸本（4）横山ジャンボ（3）花谷（6）

「今年こそ冬壁に」ということで秋に入ってから松本近郊の立岩でしこしこアイゼン岩トレに精を出した。願い叶って2年前の冬に同ルートを登っている花谷さんを監督に迎えジャンボと三人で冬合宿前に幕岩へ行く機会を得た。以下はその記録である。なお、行動時間は3人とも記録を取り忘れ、つたない記憶を頼りにしたものであるため参考にはしないでほしい。

9日 晴れ

松本発5:00～七倉～取り付き～登攀開始11:00～ボサテラス5:00～ビパーク地

アプローチの雪は少なかった。途中金時の谷の横のルンゼが落石が多くて危ない意外はすんなりと取り付きにつく。壁にもあまり雪はなかった。事前の取り決めで初日は岸本がリード、2日目はジャンボがリード、花谷さんは2日ともフォローとした。1ピッチ目、凍った草つきを左にトラバース後、凹角を直上、スラブに出たら右上しピッチをきる。記述どおり凹角にあがるころと上がってから右にトラバースするところがいやらしい。貧弱なベルグラとワキ毛くらいのしょぼい草つきをつないでクリア。ガネッシュ掃りの花谷さんはさすがにサクサクと登っていた。2ピッチ目垂壁を人目で越えスラブへ。しばらくするとボサテラスに着く。このピッチ垂壁は単調な人口。しかしその後のスラブには雪はなく真っ黒。夏ならば快適なフリーのスラブもアイゼン手袋の冬にはただただ恐ろしいだけであった。念のために持ってきたフックがここで活躍。予想以上に時間がかかってこの日はここで終わりとなった。ジャンボのユマールを待って右稜側に懸垂で下降しビパーク。月明かりがまぶしい夜だった。

10日 曇りのち雪

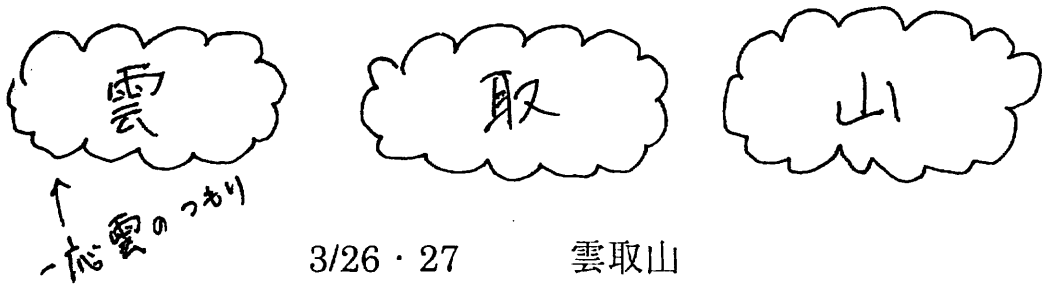
4:30起床～6:00登攀開始～1:00終了～下降～4:30七倉

2日目のこの日は、まずは前日のFix、50メートル一杯のユマールから始まった。はじめしばらくは空中ユマールで寝起きの体もこの朝一のエクササイズで目がさめた。この日のリードは全てジャンボ。私はひたすらユマラーだったのでルートの詳細はわからなかったが、リードした本人曰く「とにかく楽しいです。」とのことであった。途中から雪となり「やっこ冬壁らしくなってきた。」と花谷さんは言っていた。ユマールで汗をかきビレイ点で待っている間に体が冷える、の繰り返しであった。最終ピッチは完全な空中ユマールで高度感満点。ひたすら岩角にこすれるザイルとその振動がダイレクトにつたわり、いろんな想像をしてしまった。

1時に終了点にて3人であつちり握手。下降は夏と同じく右稜を下降する。懸垂を終え標高が下がると、雪は雨に近いみぞれとなった。

濡れ鼠になりながらも、はじめての冬壁を終えた満足で心は満たされていた。私は登攀を終えた後で、登りきった壁を下りながら幾度か振り返って、しげしげと眺めるのがたまらなく好きだ。そして歩きながら仲間とその日の登攀についてあそこがよかった、あそこがおっかなかった、次はあれに行こう、だなんて話をするのが大好きだ。胸をつつむあの独特の複雑な感傷がたまらない。幕岩からの帰路もそうだった。冬壁は特にそれが深く味わえる。幕岩に行きそんな感想を持った。

(記:岸本)



横山勝丘(4)

佐藤祐樹(2)

今回は僕が雪質調査のサンプリングをするために、半ば無理矢理佐藤を誘って成立したものだ。南ア以降、縞枯山と中ア千畳敷でサンプリングを行ったが、なかなかの雪量で21世紀最初の3ヶ月は雪まみれの生活であった。そんな感じだったので、今回も何の迷いもなくわかん、アイゼン、ピッケル、スコップを持参した。

3/26 ぼかぼか陽気の20号をひたすら走る。途中仮眠を取り、奥多摩へ。何年ぶりだろうか。国道を離れ三條の湯への林道に入ろうとすると、なんと昨日から工事が始まってしまったらしい。仕方なく行けるところまで行ってそこから歩くことにする。見える稜線に雪はない。あれまー、こんなもんだったかやあ。高校時代を思い出すが、いまいちびんとこない。林道を抜けて登山道に入ってもぜんぜん雪が出てこない。途中、何人もの人とすれ違う。南アでは25日間全く人に会わなかったというのに。背中につけたピッケルとスコップが恥ずかしい。よかった～、ビーコン持ってこなくて。二人とも飛ばしに飛ばして、3時半ころ山頂につく。何とか雪の多いところを探して、サンプリングを済ませる。この日は山頂の避難小屋で泊まることになった。国分寺高校山岳部の追いコンがあって、賑やかな夜だった。部長さんはかわいい女の子。

3/27 寝坊。というよりは急いでも何もならないから。朝からカルビを喰らい、10時に出る。のんびりと下山。下についてから研究室の鈴木先生と合流するまでの間、ドライブする。桜が咲いていてなんだか嬉しくなってしまった。長野に住んでいると春が異様に嬉しいが、今年はいつになく寒かったし、ずーっと山に入っていたのでいつもの倍くらいうれしく感じた。先生と合流後、小菅の民宿に泊まる。飯がうまかった。酒も旨かった。でも食いすぎた、飲みすぎた。翌日は雨。また佐藤と二人きりになって、大月に出てから20号をひた走って松本に帰った。次の日の松本は…雪。不公平である。

伊豆クライミングツアー

4 / 2 ~ 4 / 4

横山勝丘(4) 岸本俊朗(5)

4月1日 夜、岸本さんの日本語講座の仕事が終わるのを待って、8時過ぎに伊那を出た。交替しながら運転し、韭崎を過ぎ、身延を過ぎ、清水を越えてやっとこ沼津に入った。ほっとしたのもつかの間、国道を離れて海岸沿いの道を選択した瞬間、我々はどん底へと落とされた。すでに4時間以上経過していて、12時をまわっていた。二人とも疲れているのに追撃をかけて、想像を絶する山道であった。単純に地図上で距離が変わらないからといって安易にこちらを選択したのが間違いだった。だって長野県の山道何てもんじゃないのよ。二人で何とかがんばって2時過ぎに雲見のオートキャンプ場に辿り着いた。

4月2日

出発 600~645 取付 700~1230 終了点 1300~1430 取付 1500~1530 車

朝目覚めた二人は簡単な朝食を摂り、早速海金剛へと向かった。アプローチは思ったより簡単だった。記述にある入口の青い小屋というものはなく、グレーの小屋前のカーブからアプローチ道は始まっている。道はひたすらトラバースに終始する。途中湿地帯や、ガレ場はあるが、概ね歩きやすい道である。道が右に折れ、下り始めれば海金剛はすぐそこである。突然目の前に海が現れ、左手に左壁が見える。左壁は傾斜が無く、ブッシュも多い。ぱっと見ではあまり登る気にはならない。かやとの道を行くと、FIXがある。何とここまで20分で来てしまった。ここはクライムダウンでも可能である(我々はクライムダウンで降りた)。しかし落ちたら危険なので慎重に行った方がよい。支点はよくない。崖を降りた私はびびった。猪の死骸が横たわっているではないか。海金剛の上の方から落ちたのだろうか? まあ、なんとも野生味に溢れるところではある。正面壁へは、目の前の尾根(中央稜末端)を乗越す。反対側へ入ると辺りは樹林帯になり、各ルートの取付が解りづらい。今日登る「SUPER RAIN」は中央稜から数えて二つ目のジェードルからである。ちょうどこの日はもう1パーティいて、すんなり取付が解った。つばって(じゃんけん)、順番を決める。岸本さんリードで始めることにする。

1P目(5.8, 45m, 岸本)出だしはジェードルである。簡単なムーブをこなしてすいすい登ってゆく。1P目終了点は35mほど行った立木だが、上のブッシュまで行けそうなので伸ばすことにする。剥がれそうなフレックから傾斜の立ったフェースを越え、スラブが現れる(5.8)。ここは左のクラックにナッツがよく決まる。一步頑張ればあとは簡単。ちょっと緊張するトラバースをこなせばブッシュ帯である。ここのトラバースはノープロなので慎重に。終了点から右に10mほど歩いてから2P目に取付く事にする。

2P目(5.10c, 30m, 横山) 2P目(トポ上では3P目)の取付きが解らない。しかしどこでも行けそうだったので取り敢えず一番右からすっきりしたフェースを登る事にする。一段マントリングで越して、右に見えるシンクラックを目指す。この時点で左の枯木のとこ

ろが正規ルートだと気付いたがこのまま行った方が面白そうだったし、元に戻るのも大変そうだったので、そのまま直上した。カンテまで右上すると、カンテ上に顕著なハンドフィンガーサイズのクラックが走っているののでそこを快適に登る。途中、ロストアローの残置あり。上部のバンドにある立木にシュリングがかかっている事を考えてもどこかのルートらしい(後で調べてみてもよく分かりませんでした)。クラックに浮き石が詰まっていたので取り除き、そこにキャメロット#1を決める。そのすぐ上は40cm四方の浮き石である。ここから傾斜は急になり、クラックは非常に細くなる。左にトラバースするが、なかなか緊張する。足はスメアリングである。既にキャメロットは3、4m下であるが、目の前のクラックに決まるプロテクションがない。今回、二人ともオールフリーを目指していたので、あえて甘えが出ないようにボルト、ピトン、ハンマーを置いてきていたのだった。仕方なく、ナッツの半がけのみとなってしまった。意を決して登る事にする。両手甘いホールドで耐え、足はスメアリングして上の広がったクラックに手を伸ばすと、、、!ない!全然ホールドなんかじゃない。必死こいて足を上げて、上のプッシュに飛び掛かった(?)。助かった。後は左にトラバースして正規ルートに合流。久々にアドレナリンが出た。うーん、ルーファイミス。でもオンサイト。ほっとした。何てルートだったんだろうか?誰か教えて下さい。

3P目(5.8, 25m, 岸本) 顕著なフレークを右上する。出だし、今にも剥がれそうな薄ーいフレークに全体重を預けなければならず、いやらしい。その上は思い切ってレイバックの姿勢になれば簡単である。なかなか快適である。立木から直上するワイドクラックに登るが、体をうまく挟んで登るのは思ったより楽しい。

4P目(5.9, 35m, 横山) このルートのハイライト。快適なフィンガーサイズのクラックをぐいぐい登る。岩も固く最も良いピッチ。最後数mはぼろぼろの斜面になるので落石に注意。下部要塞岩壁の基部に、快適な大テラスがある。眼下には海が見え、気持ちが良い。フォローの岸本さんを迎えるが絵になる。

5P目(5.8, 30m, 岸本) 大きなフェース右端のワイドクラックである。高度感はルート中最大であり、グレードの割にはかぶっているの緊張する。二人とも前のピッチなんかより全然難しく感じた。

6P目(5.8, 20m, 横山) 出だしのワイドクラックはボルダリングちっく。後は凹角を登って山頂へ。 下降は同ルート。来た道と同じ道をてくてく歩いて車まで戻った。

二人とも腹が減っていたので、松崎の町まで出る事にする。海の幸が食べたいと思って店を探すが、いかんせん予算が少なく、また、我々の汚らしい姿では入れそうなどころは少ない。仕方なく、国道沿いの喫茶店に入った。そこで何を血迷ったか、2人して1300円の海鮮うどんなるものを頼んでしまった。・・・。「チベット」じゃあれの倍くらいあるのを半額以下で売ってるぜ! 機嫌を悪くした二人は、モスバーガーへと直行した。運の悪い事に雨まで降り出しやがった。取り敢えず明日は「SURF & SNOW」に登る事に決めて、朝になっても雨だったらそこで考える事にした。帰りに石部の無料露天風呂に入っていく

ことにした。港に車を止め、脱衣所で素っ裸になり、いざ！と意気込んで入ったら、、、水じゃねーか、おい！もう何もやる気をなくしてその日はさっさと寝た。

4月3日

雨。夜中の3時までは良かったんだ。いきなり来た、ぶっーわーっと。目が覚めてからはひたすら待つ。9時を過ぎてもう待ちきれなくなり、思い切って城ヶ崎に転進することに決めた。西伊豆から東伊豆に変わると、雰囲気が一変する。観光客も多いし、何よりイメージが明るい、東は。ちょうど桜も見頃で春を感じた。この日はファミリーエリアでクラックを登り込む。夜中、海沿いの駐車場に車を停めて助手席で寝ていたら、車が海に落ちる夢を見た。気づいたら、必死にハンドルを回していた。

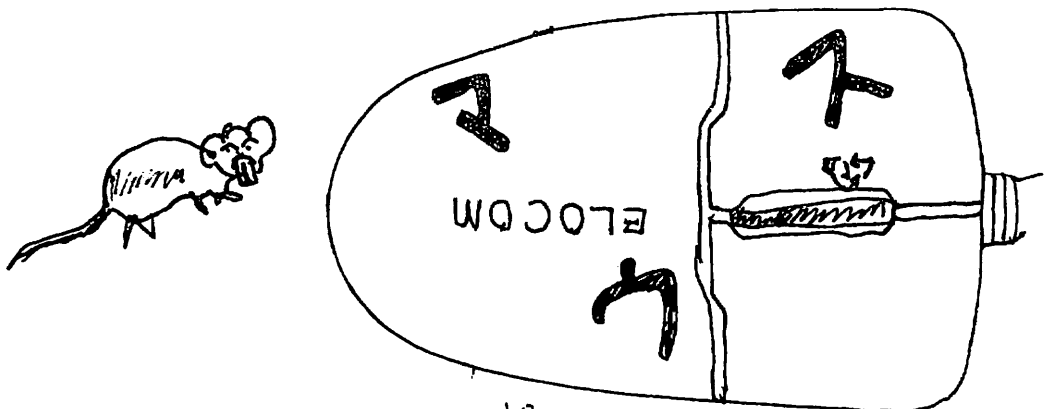
4月4日

この日も朝方まで雨が降っていたが、次第に止んできたので、シーサイドエリアでクラックを中心に登った。夕方城ヶ崎を発ち、ひたすら運転する。22時半ころ、見慣れた松本に着いた。結論、松本は寒い、寒すぎる！

春先に何日間かとして伊豆にクライミングしに来るプランは良いアイデアだと思う。例えば、最初の3日間は城ヶ崎、それから海金剛でフリーマルチピッチやエイドルートを2日間くらい、最後に城山で2日間、1週間くらい時間が取れば最高である。暖かいし、桜は見頃だし、海の幸は食べられるし、雪に疲れた人にはお薦めである。

海金剛に関して言えば、前シーズンに本チャンが足りていない人がこの季節に来るのに最適だと思う。アプローチは近いし、フリーもエイドも出来るので充分経験を積めると思う。ただし、ナチュプロの使用がほとんどなので、ただ漫然と立岩などで登っているだけでは行けるところではない。個人的に思ったのは、海金剛はエイドルート中心に開拓されてきたが、岩の傾斜や、テラス、ブッシュの量、クラックの発達具合からいって、クラックのフリールートとして登るのが最適だという事だ。エイドルートとして登るにはちょっと無理があり、練習と割り切れればいいが、松本からその為に行くところではない。立岩で充分である。ともあれ、他にはないロケーションなので、いい岩場には違いないと思う。是非一度行くことをお勧めする。

今回は雨にたたられたが、良いクラックの練習になった。僕も岸本さんも、クラックにはまりそうである。また行きたいと思った良いツアーでした。



4/7・8 富士山

L: 横山勝丘(4) 梶原恵(4) 松壽林太郎(4) 横山輝生(4) 野川謙介(3)

毎年最低一回は積雪期の富士山に登ろうと決めていたので、今回は雪質調査のサンプリングを兼ねて登ることに決めた。今回が4度目の富士山だったが、今までいつもぼかぼか陽気に恵まれている。この前11月の富士山では皆ひどい思いをしたようだが、私には「富士山=うららか」という一般常識では考えられないようなイメージが定着している。今回、出発前はあまり天気が良くないという予報だったが、多分大丈夫だろう。

4/7 松本 500~930 吉田口五合目 1000~1500 八合目 T. S

二日酔い。運転が辛い。頑張れ！何とか着いたスバルライン。相変わらず五合目は人が多い。天気もやっぱり良いし、酔い覚ましに歩くとしよう。雪は去年の4月下旬の時よりも少ない。3月は暖かかったから融けたのだろう。登りで野川が予想どおりレッドゾーンへと突入！聞けば昨日は古賀さんの家で遅くまで呑んでいたらしい。予想以上に時間がかかり、本八合の下で野川の調子を見て行動を切り上げることに決めた。酒をのみ、ゆっくり休む。夜、外に出ると月と夜景の幻想的な景色が広がっていた。やっぱり富士山は良い！

4/8 T. S500~610 吉田口山頂~630 サンプリング 1030~1120T. S1145~1300 五合目

朝、野川はまだ調子が悪いらしく、山頂ピストンを諦める。野川にサンプリングの手伝いを頼んでいたのでもちょっと困る。代わりにノックに手伝ってもらうことにした。山頂までは順調に進む。吉田口山頂で、お鉢をまわる梶・林太郎たちと別れ、ノックと二人でサンプリング場所へと向かう。雪が少なく、掘る場所に気を使う。適当に「じゃあここ掘るか！」と決めていざ掘ってみると！なぜか知らないがそこはしっかり積もっているではないか。結局、3m以上掘ってもまだ地面が見えなかったのでも、諦めて3m分だけ採取することにした。日本最高所での雪掘りは疲れた！そのうち、梶と林太郎もやってきてサンプリングが終わるのを待ってもらおう。やっぱり今日も「うららか」な一日だ。無事3m分採り終え、野川の待つ八合目へと急ぐ。テントを撤収して下る。途中から、左の沢に入って、後はひたすら尻セード。あっ！という間に五合目。快適な下山だった。後は、桃の咲く甲府盆地を抜け、白州でシャトレーゼに寄ってアイスを食べ、寒〜い松本に戻った。

長野県
梶原 恵
長野県
山岳総合センター

鹿島槍ヶ岳東尾根

日程：4月14日～4月16日（実動2、予備1）

メンバー：松寄林太郎、梶原恵、横山勝丘、大木信介

4月14日、5：25大谷原を出発。昨年に比べ雪解けも早く締まった雪で歩きやす

い。天気も良く8：30には、ニノ沢の頭に着く。そこから先の心配していた雪の状

態も良く、第一岩峰はザイルを出さずに通過する。11：00前には第2岩峰に着

く。ザイルを一ピッチ出して通過。この辺りは、ナイフエッジの雪稜になっており、

心地よい高度感があった。13：00過ぎに鹿島槍北峰に到着。剣岳が圧倒的な姿を

見せてくれた。このころから、風が強くなり小雪舞う中15：30に冷池山荘着。こ

こからが今日の核心になるとは・・・MSR（火器）がガス漏れして使えない。修理し

ようとするができない。しょうがないので、ピンチ缶を開けて少ない固形燃料でヒモ

ジイ夕食となる。そんな状況を楽しみつつ早めに就寝する。

4月15日、快晴。朝焼けに剣、立山が染まる。5：20に出発。下降路の赤岩尾根

の降り口が心配だったが雪の状態が良く夏道沿いに下る。8：00前に高千穂平に着

く。ここからは、雪が腐っていてつぼ足でシリセードを駆使して下る。雪が安定して

いたので、途中から西沢にシリセードで一気に下降する。ブロック状のデブリを横目

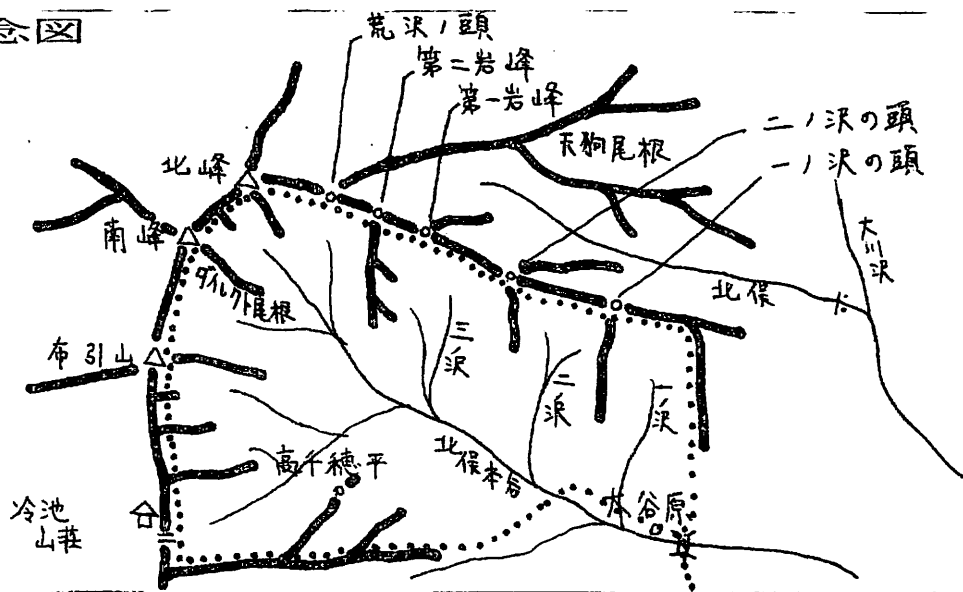
に9：20コブシの花が咲き始めた大谷原に着。いろいろな要素がある東

尾根は雪と

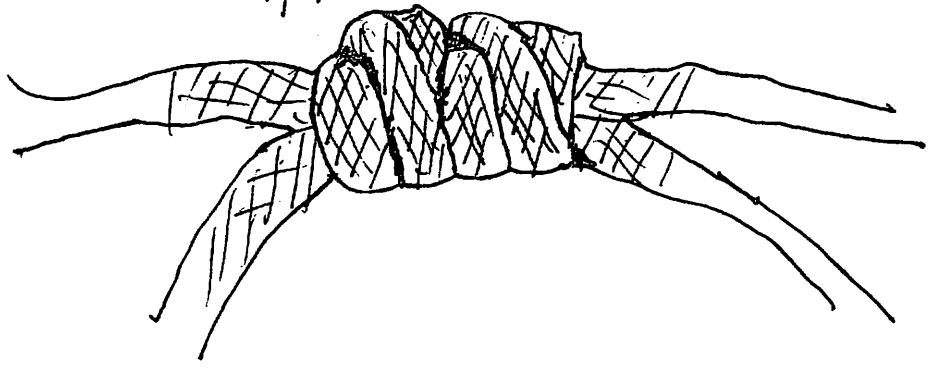
天气に恵まれ充実した山行になった。日ごろの装備チェックは、大切ですね。それ

と、今山行をもって、大木信介さんは完全復活しました・・・

概念図



よくわかるなつて
アインツァイマナー



雪訓合宿 i n 梶池 4/21・22

メンバー：佐藤祐樹 野川謙介 横山勝丘 横山輝生

4/21 梶池での雪訓。去年は成城小屋前だったが、今年は翌日の天気が悪いという予報もあり、1日で終わらせるべくロープウェー駅から20分ほど歩いた斜面で行った。幸い良い斜面も見つかった。まずピッケルストップ。メンバーが少ないこともあり、全員でやる。佐藤が新人合宿で指導するためのレクチャーを終え、昼食を摂る。昼食後、支点の作り方や、スタンディングアックスビレー、ヒマコンをやる。3時半に全ての訓練を終え、リフト営業が終わるのを待つ。その間、持ってきたファンスキーを練習。ジャンプ台からの大ジャンプは面白かった。しかしファンスキーを圧雪されていない斜面で、しかも荷物を持ってやるのは相当大変である。山での採用はまだ先のようなのだ。リフト営業が終わり、ゲレンデに人がいなくなるのを見計らってから、下り始める。今季初スキー(遅すぎ)。楽しかった。

- ・スタンディングアックスビレーは、今までピッケルのヘッドに両足を乗せていたが、それはなかなか不安定である。片足は登りのビレーでも下りのビレーでも一歩上に置いておいた方が良く感じる。例えば、右方向に登っていく場合なら、右足はヘッドを踏み、左足は一段上に置く。右方向に下っていく場合も、体は山側に向けて、上半身をひねってリードを見る。その時足は左足をヘッドに、右足は一段上において少し前かがみになるようにすれば、万が一リードが落ちてでも安定するように感じた。ピッケルにテンションがかかった時、片足しかヘッドを踏んでいなくてもピッケルが抜けたりするようなことはまず無い。はっきりとこれが良いとはまだ言えないので、これから勉強してみたら良いと思う。
- ・ROCK&SNOWに載っていたヒマコン3(8環の代わりにATCを使う)を試したが、あまりお勧めできない。制動が効きすぎる。特に、登りで前を歩いていて、不意に後ろの人が落ちた場合は危険である。やはり8環で最も制動の効かない(?)やり方が一番良い。
- ・ヒマコンで、先頭が落ちた時その人はなるべくロープを放さない。手がロープに締め付けられるが、手袋をしているだろうし、そんなに手に衝撃は来ない。放さなければ墜落距離が少なくすむ。逆に、後ろが落ちた場合その人はロープを投げる。制動者にかかる衝撃が少なくすむ。まあ、とっさにそれが出来るかどうかは疑問だが。

以上気がついたことを挙げてみました。

(文責 横山勝丘)

北アルプスキー山行

<日程>4月28日(土)~5月2日(実働3日+予備2日)

<山城>北アルプス北ノ俣岳・薬師岳

<メンバー>L野川(3年) 川井(院2年) 松寄(4年)

行動記録:

4/27

22時頃松本出発一路飛越トンネルと向かう。24時頃トンネル手前1キロで残雪に阻まれ、結局打保で仮眠をとる事に。

4/28

4時半起床。眠気ナマコで朝飯を食らい、ゆっくりと準備する。朝食後車でトンネル近く行けるところまで行き6時歩行開始。寺地山、北ノ俣避難小屋を通過し1時半北ノ俣岳。そこからは待ちに待った滑降タイム。思い思いのシュプールを描きながら2時半太郎平小屋。しばらく何もせずビール片手に春の陽射しを満喫しました。顔が痛くなるくらいいい天気でみんな真っ黒になりました。

4/29

4時起床。昨日の予報で午後から天気が悪くなる、わかっていたので、薬師岳を滑ってそのまま下る事にした。5時40分太郎平小屋発。8時半薬師岳。本当は山頂から滑りたかったんですが、時間の都合と残雪量の問題から、避難小屋直下から8時45分滑降開始。10時太郎平小屋。荷物をまとめて10時40分小屋発。1時間半ほどで北ノ俣岳に着き1時滑降開始。17時半に飛越トンネル下駐車場に着きました。雪がやや腐っていて、滑りにくいところも多少ありました。4月の中旬から中旬にかけてがベストシーズンでしょうか。斜面も難しくなく広々としていてとても気持ちいい山行でした。



4/28・29

瑞牆山十一面岩各ルート

L: 横山勝丘(4) 花谷康広(OB) 岸本俊朗(5) 大木信介(5) 佐藤祐樹(2)

4/28 松本 400~830 黒森 900~1000 末端壁基部 T. S1030~1100 各ルート

朝、松本を出て岡谷のローソンで朝食を買うが、自分がシュラフやトポを忘れたことに気づく。急いで松本まで戻るが、1時間半のロス。申し訳ないっす。気を取り直して黒森まで進む。明日はプレ植樹祭があると聞いていたので、今日入って明後日下りて来れば良いだろうということにしておいた。ゲートは去年より下に取り付けられ、そこに広い駐車場があった。そこに車を止め準備をしていると、役員らしき人がやってきてここには停めるな、と言う。仕方なく、車を移す。まさか路駐出来るはずが無いので、不動沢方面の林道を少し行ったところに停めた。荷物を背負い、十一面へと向かうが、重い！それでも順調に基部につき、時間も時間なのでさっさと岩へ向かう。大木・岸本パーティは調和の幻想、他の我々3人はベルジュエールに向かう。ベルジュエールに取付いたのは11時を過ぎていた。3人パーティなので、取り敢えず花谷さんがリードで登り、途中で誰かに交替するつもりで取付いた。1P目はフリーで行くと5.11bだが、リードの花谷さん、僕ともに早々と諦め、A0マシンと化す。佐藤はあぶみで登ってくるが、笑ってしまうほど苦勞してこのピッチに大量の時間をかけてしまう。2P目も5.9のくせにやけてこずる。3P目は本チャンちっく。4P目、快適なハンド〜フィンガークラック。短いがお勤めのピッチである。この終了点ですでに時間が経っていたので上まで登るのは諦めることにする。しかし、5P目を登らないことにはベルジュエールの価値が半減してしまうので、5P目を登ってから懸垂で下りることにする。去年はリードで登ったのでよく写真にあるような光景は知らない。今回は花谷さんがリードなので、テラスでゆっくり見物させてもらうことにした。非常に美しく、かつ豪快なこのピッチは見ている方もワクワクしてくる。オフィズスから上部のフレイクに手がかかり、レイバックに移った瞬間、花谷さん雄叫びをあげる。思わずこっちも興奮する。フォローするが、フォローでも最後のレイバックは最高に気持ちが良い。佐藤も奮闘するが、最後の最後で力尽きて落ちてしまう。一度落ちると、振られてクラックに戻れないので、仕方なくユマーリングして登る。それでも登ってきた佐藤は「今日は楽しかった」と言う。いい事だ。トレーニングを積んで今度は登り切ろう。花谷さんは気持ちの良いこのピッチを登って満足していたようだ。グレードが特別に高いわけではないが面白さでは最高のルートだと思う。また「ベルちゃん仲間」が増えてうれしい。懸垂で南回帰線の方に向かって下りてゆく。もう辺りは暗くなっている。最後は暗い中を空中懸垂で降りた。ガレ沢を下り、テン場へと戻る。岩小屋でうどんを作って食べる。よく考えると5人中現役は2人だけではないか。他の大学と比べれば人は多いかもしれないが、それでもメンバーが固定されたり、5年生以上が多かったりするのはいちよと寂しい気がする。調和の幻想の方は、とても快適なルートだったらいい。ワイド系が多く、キャメロット#5がよく決まったようだ。上部で風鈴に合流してからも気持ちの良いレイバックが続くなど、

二人も満足していたようだ。そういえば昼間、植樹祭会場で何かイベントがあったらしく、カラオケ大会で盛り上がっていた。いつものワイルドな雰囲気が一変、なんだか不思議な感じだった。また、上から見る遊歩道は違和感を覚えた。明日は夜から天気が悪くなると言うので、30日は止めて、明日下山する事に決めた。ルートは横山・大木で南回帰線、他の3人でスコールと決まった。

4/29 500起床～625T.S～645取付 715～1400終了点 1410～1430取付 1530～1700
駐車場=2000松本

4時起床のはずが5時。やってしまった。まあそんなに急ぐのはやめよう。スコール隊よりも早く出る。南回帰線は、燕返しの大ハングの左をかすめて抜ける10Pのエイドルートである。下から見る限りなかなか威圧的だ。ハングの抜け口に、いくつかのピトンスカーがあり、ネイリングが必要なことがわかる。早速横山リードで始めることにする。まず、簡単なフリーで6～7mゆく。岩はとても脆い。この時点でちょっとヤバイかな?と思ったが、もうちょっと頑張ってみることにした。脆いクラックにナッツを決め、一気に左にアンダーフレークを取りに行く。キャメロット#1、#2を決め、いよいよネイリングに入る。なかなかのハングである。腰が痛い。上部のリスにピトンを打つが、あまりにも脆くて岩が砂のようにポロポロ落ちてくる。仕方なく、ロストアローとナイフを2本打って両方にタイオフする。非常に恐い。その後もピトンを打てばまわりが壊れる、といった感じで進むのに苦労する。脆い岩を落とした後にエイリアン黄色を決めるが、体重を乗せて何分も経ってからそれがギギッと動き出す始末。やむなく、50cm左のクラックに、キャメロット#3、エイリアン赤、アングルタイオフを決めてもとに戻る。ハング抜け口でやっとボンバーなエイリアン赤が決まる。意気込んでハングを抜けるとそこには...ひたすら続くネイリング。いい加減嫌になる頃、やっとネイリングから解放されそう。この間、フックも使った。ヒーヒー言いながらようやくビレー点へ。35mの充実ピッチ。3時間もかかってしまった。だってゾディアックなんかよりも断然難しいんだもん。ノンフォールだったが、実力不足。まだまだである。クリーニングのボンドさんもハングに苦労しているようだ。ようやく1P目を終え、ボンドさんリードで2P目に向かう。出だしフックからは快適なカムのかけかえ。途中、ボンドさんが眼鏡を落とす!この時点で敗退決定。まあ、実力が無かったということで許してくれちゃ。ビレー中、隣のオフィススで岸さんと花谷さんが奮闘しているのを目の当たりにする。下から見ると傾斜はないように見えるが、本人たちは大変そう。ようやく岸さんが抜けたようだ。同じくしてボンドさんもビレー点に着く。快適にクリーニングして終了点に着く頃、雨がぱらっと来た。さっさと懸垂の準備を始める。ここより先、南回帰線はモアイフェースを行くが、なかなか快適そうである。そこまで辿り着けなかったのは残念。昨日と同じ懸垂をして基部に戻る。ちょうどスコール隊も下りてきて、大眼鏡搜索大会になるが、いくら探しても見つからず、結局諦めることにする。岩小屋まで戻り、荷物を整理して下山する。ちょうど雨も本降りになってきた。

瑞牆山は絶対に行くべし。と言うよりクラックは絶対やった方が良い。勉強になる。好

む好まないにかかわらず、上級生はクラック技術のある程度はマスターすべきだ。クラックを登っておけば、ナチュプロの使い方はすぐマスターできるし、度胸もつく。もちろんフリーは上手くなるし、本チャンと共通する部分が多い。積極的に登りに行ってほしい。特に瑞牆はお勧めである。へたな本チャンに行くよりも為になる。また6月に行こう。

戸隠 P1 尾根

○ 日程 5月3日(木)～5月5日(土) (2+1)

○ メンバー

L 梶原 恵(会4)、松寄 林太郎(会4)、横山 輝夫(会4)、
日高 弘次(会5)、大木 信介(会5)

○ 行動概要

5月3日(木)

9:00	西岳登山口出発	14:20	無念の峰 TS
9:55	楠川渡渉	14:45	蟻の門渡り前
10:30	天狗原	15:20	TS 着
11:55	熊の遊び場		

計画段階では5人の予定だったが、諸事情により急遽二人となった。4年生2人なので問題はないだろうという事で、入山。雪解けの水で増水していたため、靴を脱いでの渡渉。冷たさで足が痛い。天狗原は牧場のような良い所。最初は緩やかな登りから、戸隠特有のふくらはぎのパンプする急登へ。熊の遊び場までは雪もなく嫌らしい岩場などもなかったが、そこからは急な草付きとボロボロの岩場へ。荷物が重いせいか、かなり嫌らしい。無念の峰にテントを張る。かなり快適なテン場だ。下りに時間を取られそうなので、今日のうちにピストンを済ませることに。無念の峰から10mの懸垂。そこから雪壁を登り、核心、蟻の門渡りへ。しかし雪の状態が悪いので、敗退と決める。泣く泣くテン場に戻る。

5月4日(金)

4:30	起床	10:20	天狗原
6:00	出発	11:15	西岳登山口
8:55	熊の遊び場		

なかなか精神的疲労のたまる1日だった。熊の遊び場まで懸垂6回。冷や汗ダラダラ。支点の事を考えて短めに切っていたので、回数は多くなった。その先で最後にもう1回懸垂。ようやく生きた心地になって、無事下山。

戸隠は年のよっても変わるだろうが、この時期が一番微妙に登り難い時だと思った。雪のぱっしりと付いた時期に行ってみたいものだ。

一年間

の

総括

又

今年の目標。

4年生 BOND

人生は珍道中。

必要なのは

『想像力』『信念』

大木 信介 でした

P.S. 2月1日、私は21才 21世紀と

「21」ハットリックを決めた。

そして 2月2日 22才とニコニコ

決めた。

ギャグ 40才の 2日間でした。

おしまっ

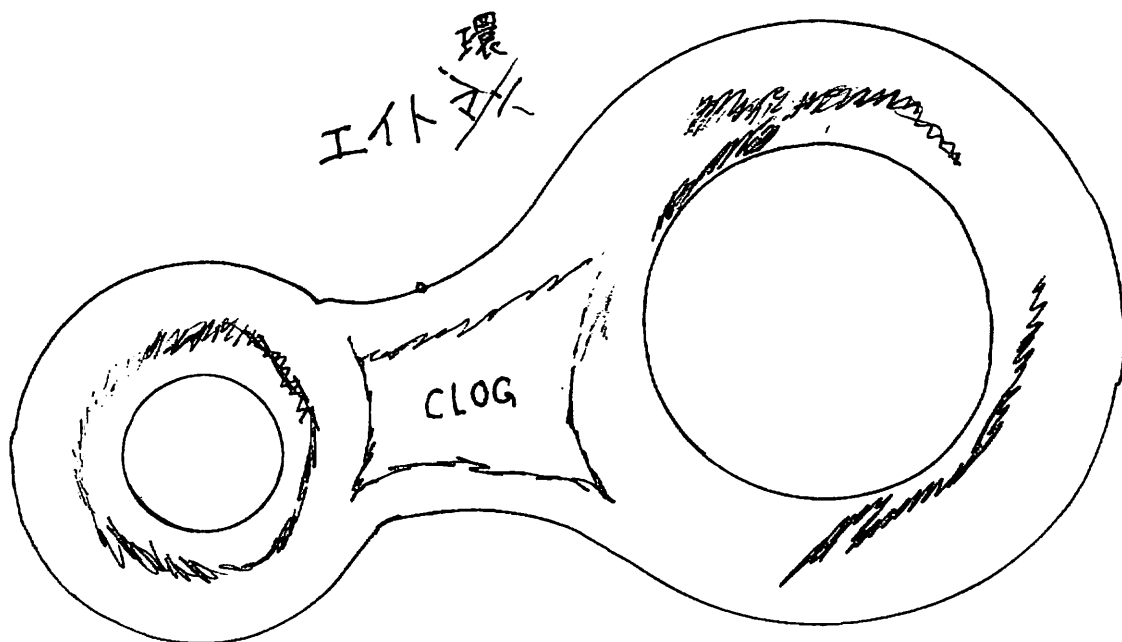
今年度の総括と来年度の抱負 松壽林太郎

今年度を振り返ってみると、夏合宿での事故、1,2年生が一人しかいなくなってしまったという事、冬合宿での長期の沈殿、南アルプス縦走、etc、と本当にいろいろな事があった。その中から本当に多くの事を感じて来たと思う。そして、来年度に対して思う事は…

- ・自分の考えは相手に伝える。
- ・4年という立場を意識しながら、もっと創造的にいきたい山に行く。
- ・山と山以外の事、やると決めた事は人から何を言われようと自分の信念を貫き通す。

いずれも言うのは簡単だが今の自分にはなかなか難しい。しかし、今しかできない。

夏合宿の事故でやはり登山行為には命がかかっているというのを実感した。来年度がよい意味での自己改革の年になればよい。



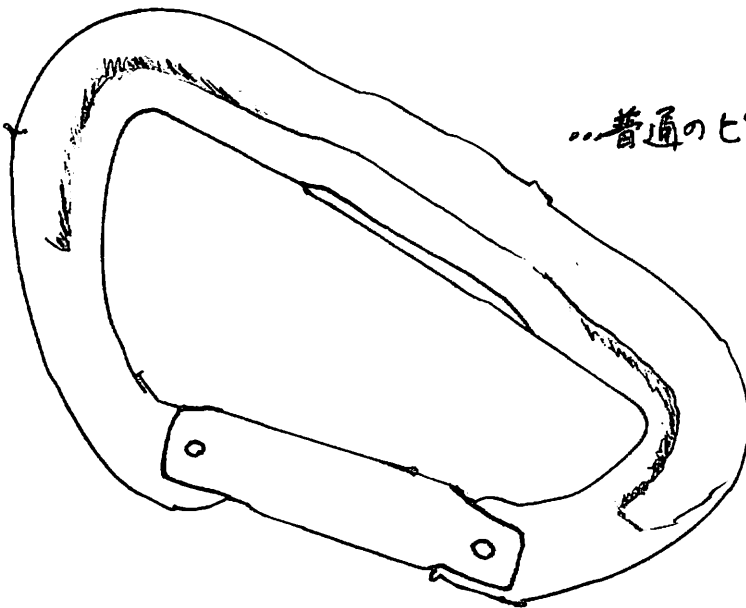
昨年度の総括と今年度の抱負

昨年は行った山行を思い浮かべてみると、1年生と行った山行が多かったように思う。基本的に縦走などののんびりとした山が好きというのもあって、1年生を連れて行く山が多かった。自分の中で特に行きたい山があったわけではなく、ただ皆とワイワイガヤガヤと行ければ良かった。ただ、山において根本となる挑戦や冒険といった要素が抜けていた。登攀技術の向上や未知の領域への第一歩というもの。今年はそういう要素も取り入れつつ、皆と楽しく登って行けたらと思う。

合宿などの全体を通してでは、昨年は事故もいくつか起こっており、大きな事故を経験していない我々の世代にとっては得るものも大きかったと思う。今年、4年として会を運営していく立場として、1年間を無事故で通せればと思う。また、下級生から「この人と山に行けば大丈夫」と言われるような、どっしりとした上級生になりたい。

そして、今年是最後の年なので、有終の美を飾るためにも冬合宿は何としても成功させたい。

梶原 恵



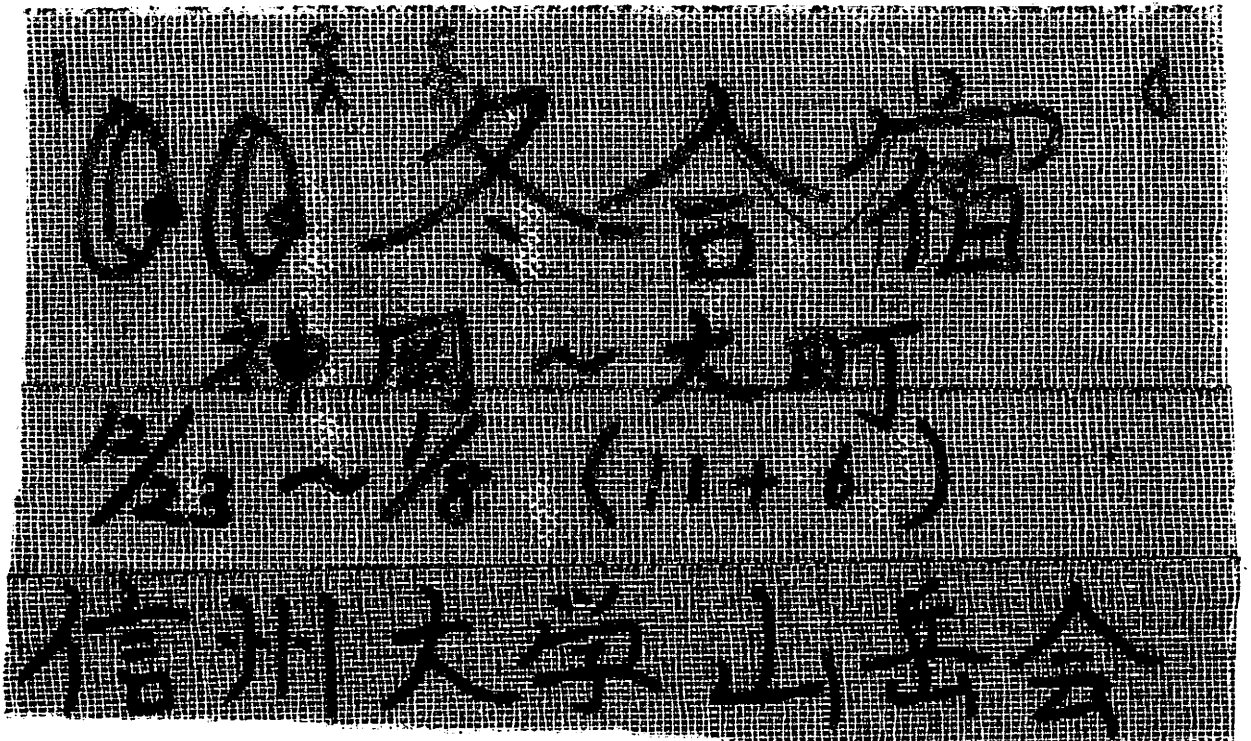
一年間の総括・今年度の抱負 横山勝丘

今年は本当に好きなことをやらせてもらった一年間だった。これは自分だけの力では出来るものではなく、皆の協力があってこそである。改めてありがとうございますと言いたい。おかげで多くの貴重な体験が出来ました。自分の登山感(といたらちよつと大袈裟だが、)が少し見えたかな、という感じです。この経験をいかに山岳会に還元できるか、ということを考えていきたい。

一年生を残すことが出来なかった。この問題点はいろいろあると思うが、自分なりに分析してみて感じたことをこれからに生かしていきたい。

一年間サブリーダーを務めさせてもらったが、これにより多くの「考える」という機会を得た。まだまだそれは熟してはいないが、これからの一年間でモノにしていけたら、と思う。気を付けるべきは、自分本意にならないこと。

これからの一年間、リーダーとして、山岳会の一員として、登山者の一員として、どれだけのことが出来るかはわからないが、今年もまた「欲張り」でいけたら、と思う。いかに一年生に山や、山岳会の魅力を伝えられるか、これがこの一年間考えてきて、一番強く感じたことだ。後輩をその気にさせるには自分がその気でなければならない。後輩に山の楽しさを教えるのだったら、自分が楽しいと思って山に登る必要があるし、いかにしたら自分も後輩も楽しくなるのか、といったことを考えなければいけない。後輩を山に連れていくことを「義務」と感じたらそれで終わりだと思う。もっとこだわりを持って山に行こう、その気持ちはきっと後輩にも伝わる(かな?)。いや、絶対だ! そうだ、山に行こう。うん、それがいい。



総括と抱負

今年の抱負は？ といえば、

自分の興味のある山に登り、

新たに入ってきた1年生が、山岳会を続けていけるような環境作りをした。

サブリナーとしては、会に安定感をもたせたいと思う、

4年生4人、2年生1人、と現在の状況は厳しいが、

佐トーは3人の中でも、山を楽しんで、<い<>とみんなを引っ張って
いってほしい。

山は単純に楽しいのだ。

その楽しさを求めて、やってきた1年生の期待を裏切らない
上級生、山岳会であるのが、今年目標である。

以上、ルッキーニで、knockでした。

あかり

圏 48470
長野・松本1400きっぷ
乗車券 (かえり)
松本▶長野

¥1430

- 2日間有効
- 途中下車・乗車変更はできません。
- 有効期間内で未使用時に限り発売箇所
所で払い戻し致します。

13.-4.24 長野駅303発行

とく
とく
とく
キッ
プ

昨年度の総括と今年度の抱負

3年 野川謙介

去年の今ごろ書いた去年の総括を読み返してみた。色々書いてあり、1年前の自分の話を読み、懐かしい思いになった。思えば色々あった1年間だった。同期の退会、そして一年生は軒並み辞めていき、色々悲しい思いもした。と書いていて、ふと、そう言えば俺も1度辞めたんだな、と気づき筆を置いて色々と思い返してみた。去年の前期、勉強にもついていけず、山岳会の活動には全く自信を持たず人間不信、絶望のどん底に居た僕は6月総会で退会した。しかし退会した僕を待っていたのは心の安らぎや安堵ではなく、獲りつかれたような倦怠感、更なる絶望だった。それまで辞めたくて仕方なかった山岳会が僕に本当に必要なもので、この空間、「座」こそまさしく僕が追い求めていたものだとは本当に気づいた時、僕は再入会する決心を固めた。7月総会でのことである。わずか一ヶ月といえども自分勝手きまわり無い僕の行動を皆は非難するどころか、理解してくれ、また新たに仲間として迎え入れてくれた。うれしくて涙が出た。山岳会でまた山に登れることが心から楽しかった。

11月総会で中村が退会する、と知った時から、また段々と自分の中で、不安の芽が出てき始めたのがわかった。唯一無二の同期生だった彼が退会すると僕がただ一人残される事になる。将来1人で皆を引っ張っていけるのだろうか、就職活動や進学の勉強は出来るのだろうか、不安だけが胸を覆った。会の活動にも消極的になり始め、トレーニングもさぼりがちになり、山に対する気持ちも揺らぎ始めた。その気持ちの弱さが冬合宿で露になったのが三俣から野口五郎への移動中であつた。体に気持ちが到底ついていかず、もうイヤだと何度思ったことか。本当に辛い1日だった。

南アルプス全山縦走も入山時は山に対する自信など微塵も無く、ただただ不安しかなかった。一ヶ月に及ぶ山行日程、リーダー職など不安要素には事欠かなかった。

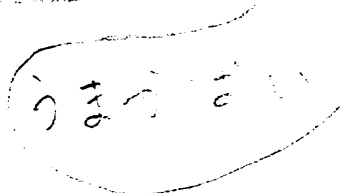
しかし結果としてこの縦走は敗退に終わったが、縦走中何か僕の中で確かに変わった。自信がついた。これだけ長期感冬山に入れる人間もそうたく

さんいないだろう。これは結構誇れるぞ、みたいな感じである。

どこがどうなってこのヘンな自信がわいてきたのかははっきり行って自分でもよく分からない。ただ今まで不安にとりつかれていた将来のことについても余り考えなくなってきた。どうにでもなる、なるようにしかならないんだから僕は全力を尽くして頑張れば良いんだと考えれる様になってきたからである。そう思えるようになると、楽しい。やっとあの自信に満ち溢れていた自分に戻れそうな気がする。

自立した大人になりたいと思う。甘えてばかりいられない。先輩方々が切り開いてくれた道をただひたすらトレースしてきたが、いつまでも人の後ろにくっついてばかりいられない。前を向き自分の手で新たな道を切り開いていく番だ。

昨年の総括の最後に、`A tunnel of hopeless may last forever, but so can the hope to get out there'と書いたが、今年は更に`and so can the effort to keep on going.'と付け加えたい。弛まない努力、不屈な精神、揺るぎ無き信念、そして仲間を大切に思える気持ちを胸に今年1年を頑張っていきたい。



<一年の総括>

佐藤 祐樹

山岳会の門をたたいて以来 光陰矢の如し、あ
 というまもなく時間が過ぎた。怒涛のこぼれ
 けりあげるシ数 励(叶咄?)の新人合宿、死
 の世界をかいま見た夏合宿、下界のありがた
 みを深く痛感した冬合宿、忘れたいようで
 忘れがたい一年間だった。しかし朝の岩
 トしは 今でもやばいなま、朝はダマだ。お
 かげで授業中はおぼてしまふし...でも今年
 は一年生をつれてがんばろー。一年生にも忘れ
 がたい一年間を送ってほしい。

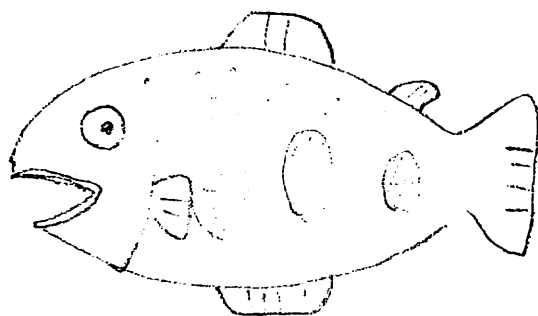


叫ぶ
 涸沢カール

〈今年の抱負〉

佐藤 祐樹

去年は先輩方に山に連れて行ってもらうというスタイルだった。今年は自分の好きな山のスタイルを追求していきたい。今、考えているのは山に釣りも取り入れた爆釣り山行。山に米たけを持参し、どれくらいやっつけられるか... 山菜の知識も必要かもしれない。非常に楽しみたい。うわ、もう一本チャン経験のない僕は本チャンの経験値もつきたい。そのための基礎となるフリークライミング、エイド等もかかるといいきたい。とにかく、今年は“自分の山スタイルで楽しみたい”と息を吐いている。



ヤマメ
山女魚

～編集後記～

今回、計画の出た山行を一枚の紙にまとめてみた。
うん、よく山に行ってます。他に鳥々のアスとか
ヤミ山行(あふのかないか何とか言えんか)とかを入れたら
大変なことである。更に、普通のフリークライミングを
入れたら一冊じゃ収まりきらないし、はたまた立岩での
岩トシを入れたらもはや編集不可能である(大げさ?)。
なんじも盛んでよいことだ。うん。あとは、いかに自戒
的に、いかに満足の中へ込められるか、である。
山登りは「想像力」と「創造力」によって成り立って
いるようなもので、それらがあふからこそ、自戒的にヒ
ニク等が出来るようになるのだし、事故や危険にも
敏感になるのだと思う。そして、後輩についてこさせる
にもその「力」は必要だし、その力があってこそ、「仲間」
という「力」が必要なのだと思う。そしてそこから、また
新たな強い「力」が生まれる... そういう循環を
つづけていけたら、と思う。

...とまあ、何とかくさいことを書いてしまった。
全然編集後記とは関係がなくなりました。ただ、
原コウを見て、今まで以上に皆の決意が見てとれたので
それにつられてつい書いてしまったんだ。ともあれ、そ
ういふ決意で今年一年間がんばっていこう。OBの方は、
今年もよろしくお願ひします。

横山 勝也



2001/5/9 印刷

印刷：松本

編集：横山J.